

令和6年度第6回一関市総合計画審議会 会議録

- 1 会議名 令和6年度第6回一関市総合計画審議会
- 2 開催日時 令和6年11月27日（水） 午後2時から午後4時まで
- 3 開催場所 一関保健センター 2階 栄養指導室
- 4 出席者
 - (1) 委員 阿部利彦委員、泉賢司委員、伊藤拓也委員、岩渕一司委員、宇津野泉委員、大内早智子委員、小山亜希子委員、加藤沙央里委員、小岩邦弘委員（会長）、西條恵美子委員、齊藤裕美委員、佐々木承子委員、佐藤弘子委員、東海林訓委員、菅原美津代委員、千田久美子委員、千田好記委員、千葉真美子委員、徳谷喜久子委員、藤本千二委員、船山賢治委員、星義弘委員、吉田捺委員、吉田正弘委員
※欠席者 及川恵理子委員、小野寺忍委員、菅原秀文委員
 - (2) 事務局 今野薫市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、小山隆之政策企画課長補佐兼政策推進係長、佐々木さやか政策企画課主任主査、渡辺苑子政策企画課主任主事、谷藤義拓政策企画課主任主事
 - (3) 一関市総合計画策定支援業務受託者 株式会社邑計画事務所 及川一輝取締役

5 内 容

(1) 議題

- ア パブリックコメント等について
- イ 次期総合計画基本構想（案）について
- ウ 次期総合計画前期基本計画体系案について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者の数 1人（うち報道機関 1社）

8 小岩会長挨拶

総合計画基本構想案については、大詰めの状況であり、12月17日に予定している第7回審議会でも市長への答申を予定しているため、本日が実質的に最後の協議となる。

また、基本計画の策定に向けた議論も今回から進めていくこととなるので、よろしくお願ひしたい。

9 審議内容

- (1) パブリックコメント等について
- (2) 次期総合計画基本構想（案）について

関連する案件のため、まとめて進行することとし、事務局から資料No.1（別紙1、2を含む。）、2-1、2-2、2-3に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 パブリックコメントに23件の意見があったということだが、事務局として、件数や内容についてどのような所感を持っているか。

事務局 パブリックコメントの件数は、現計画策定時に実施した際と比べ多かった。

意見の提出者の属性も、地域協働体、ワークショップ参加者など幅広く、多岐にわたってご意見をいただいた。件数が増えたことは、周知を様々な形で行ったことによるものと考えている。ワークショップ参加者や地域協働体などに声をかけたことにより、意見を多くいただいた結果となった。

会長 資料No.1・別紙1の「ご意見に対する考え方」の欄に記載している内容が、ホームページに掲載される。内容はこれでよいか。

(はいの声)

会長 パブリックコメントに対する考え方については、このとおりに進める。

次期総合計画基本構想案について、ご意見をいただきたい。

委員 序章の「私たちの幸せを育む一関市のあり方が変わらないように私たちが変わり続け、地域の活力を高めていくことが重要です」の部分について、とても重要な部分と思うが、表現が難しいと感じている。「変わる」というキーワードを入れたいがために、分かりにくい文章となっている。

会長 パブリックコメントでの意見を受けて、修正した部分である。

委員 「一関市のあり方」が行政のことを指すのか、全体のイメージ、産業などを指すのか、はっきりしないために、意図が的確に伝わらないと感じる。幸せを育む市であるということを行っているとは感じるが、前の文章で震災などにより一関市のかたちに変化しているとも言っており、読んでいて引っかかった部分である。

第2章にも「次の世代に変わらないまま伝えていく」という部分がある。私たちは変わると言っているのに、変わらないまま伝えるとも言っている。「変わらないまま」という言葉はこの部分に必要なか。

会長 序章の「私たちが変わり続け、」の部分は、「私たちが挑戦し続け、」としてはどうか。

委員 「変わらないまま伝えていく」について、「魅力」や「郷土の力」など今まで抱えてきたものを、そのまま伝えながら今度は変化もしていくという表現に見直す必要があると思う。

会長 思いは共有していると感じるが、表現の部分の見直しは必要という認識であ

る。我々は継続して議論しているためどのような思いか理解できるが、初めて見る人にも伝わる表現にする必要がある。

事務局 「変わらないために変わり続ける」という表現は、7月に開催したワークショップを受けて行った9月の総合計画審議会ワークショップ部会において出てきた表現であり、キーワードとしたもの。伝わりにくいのであれば表現を変えるので、具体的な案についてご意見をいただきたい。

委員 「変わる」という表現について、読み手が「変化を促されている」という印象を持つと、それが違和感につながるのではないかと思った。市民の思いは住みやすいまちで暮らして幸せになるというものであり、このために一関市では仕組みを統合したり変えたりして将来にわたって一関市を維持していくというようなイメージであるため、読み手が受ける印象を踏まえて表現を見直す必要があると思う。

委員 序章にある「価値観と社会構造の変革」の「変わる」と下の文章の「変わる」は、意味が異なる。「変わる」という言葉が多く並んでいるため、余計に伝わりにくくなっている。

委員 「変わらないように」の「変わる」は、変化の意味ではなく、醸成とか熟成とか成長していくという意味である。そのような言葉にしてはどうか。

委員 私はこの「変わらないように」を「守っていくために」というニュアンスで受け止めたため、違和感はなかった。私たちの幸せを育む一関を変えずに守っていききたいというように解釈したので、そのような表現ではどうか。第2章も、様々な魅力を持つ一関をそのまま伝えていきたい、守っていききたいという解釈だった。

委員 「適う」、「時宜に適った」という表現ではどうか。

委員 「あり方」を「良さ」に修正してはどうか。守るものは一関市の良いところであると思う。

委員 「私たちが変わり続け、」の部分も、今までの否定する印象を与えるかもしれないため、例えば「一関市の良さを守っていくために私たちは成長していく」といった表現の方が、ポジティブな印象を与えると思う。

委員 「良さ」という案が出たが、「魅力」でもよい。「一関市の魅力を守る」だと、「守る」に保守的な印象を与えるおそれがあるため「魅力を育てる」と、「変わり続け」は「成長を続け」とし、「一関市の魅力を育てるために、私たちが成長し続ける」という表現ではどうか。

委員 「私たちの幸せを育む一関市の魅力」となると、前後のつながりが悪い。

- 委員 「あり方」は良さや魅力だけではなく、構造や考え方なども含めた意味での「あり方」だと思われる。この意味合いを全て含む言葉が望ましい。
- 委員 「成長」ではなく、「進展」ではどうか。「あり方」ならば「進展」が良いと思う。真に言いたい意味から考えてはどうか。
- 委員 「私たちの幸せを育む一関市が変わらないように」と、シンプルにするのも良いと思う。
- 委員 「あり方が変わらないように」は、今まで一関市が進んできた道は間違いではないということも言っている。今までの一関市を尊重しながら、変わっていくというニュアンスである。
- 会長 イメージは共有されていることから、次回までに言葉を精査する。
第2章の「次の世代に変わらないまま伝えていくため」の部分は、意見のとおり、「次の世代にそのまま守り伝えていくため」で良いか。
- 委員 「挑戦し、変わり続ける」は、「挑戦し続ける」が良いと思う。
- 会長 そのとおりとする。
- 委員 第4章の健全かつ効率的な行財政運営について、「市民の視点に立った」という言葉が、上から目線に感じるというパブリックコメントがあったが、市民と行政に役割を書き分けたことによるものと思う。「市民にとって分かりやすい」を「市民に寄り添った」にしてはどうか。意味が変わるようであればそのままが良いが、表現の工夫としての意見である。
- 委員 全体的な漢字とひらがなの使い分けについて、「いきる」と「生きる」は注釈がついているが、ほかの言葉の使い分けの定義はどうなっているか。
- 事務局 「ひと」「まち」「しごと」は、キーワードとしてひらがなとしている。全般的には公用文におけるルールを基本に、読みやすさなどを考慮し、整理した。
- 委員 整理されているのであれば良い。
- 委員 「ひと」と「人」の使い分けは、注釈を読むと、つまり自分と他者という整理と思うが、難しい。分かりにくい注釈をつけ読み手を混乱させるよりも、全て「ひと」に統一してはどうか。自分と他者の区別であれば、文脈から伝わるものと思う。
- 委員 漢字表記などは、国の審議会基準が示されているので、それに沿うのが間違いないと思われる。
- 委員 漢字とひらがなの使い分けについては、将来像や基本目標における使い方に波及する。
- 委員 使い分けの視点は、読みやすさ、親しみやすさという考え方、見え方もある。

委員 ひらがな表記のところは、特別な意味を持たせた使い方としている。そうであれば普通名詞の人は「人」とし、特別な意味を持たせる言葉はその意味を文章中なりで説明した上で全てに鍵括弧をつけて表記してはどうか。第3章第1節の「ひとと人」という書き分けが目につくので、統一性を持たせるのが良いと思う。

委員 思いがあるのであれば、全てに注釈をつけるのも方法と思う。市民に伝わる表記とすべき。

委員 第3章第1節に「「まち」は「ひと」の集合体であり、」という部分がある。「ひとと人」は、どちらもまちに暮らす「私自身」であることから、「ひととひと」が良いと思う。

会長 この部分はパブリックコメントを受けての対応である。パブリックコメントの内容は資料No.1・別紙1の14番のとおり。

事務局 読みやすい表記にしてほしいというパブリックコメントを受け、表現方法を検討する中で、注釈で説明することとしたものであり、注釈という方法に限ったものではない。

委員 文中で分かるのであれば、注釈はいらない。

会長 分かりやすいように修正する。

委員 第4章の協働のまちづくりの市民などの役割部分が、決めつけられているように感じる。行政は協働に際し支援をするだけではなく、地域とともに作り上げるという部分を盛り込むべきという意見が出ているが、その部分がまだまだ弱いと感じる。一緒に悩み考える姿勢をもっと見せてほしい。「自助・共助・協働・公助」の部分は、協働のまちづくりの考え方とは異なるのではないか。

事務局 これまでの協働のまちづくりの考え方との整合性を踏まえて検討する。

会長 今日のご意見を受けて修正し、次回の審議会を確認をお願いし、その後に答申することとしたい。

(3) 次期総合計画前期基本計画体系案について

事務局から資料No.3-1、3-2、3-3に基づき説明を行った。

以下、質疑応答等。

会長 資料No.3-2を基に施策の中分類を整理するということだが、施策の大分類はどのように整理するものか。

事務局 施策の中分類をさらに集約し、大分類をまとめる。これまでの基本計画の構成と分類区分が異なることから、実際の取組をグループ化する手順を考えている。

委員 前期基本計画を策定するに当たり、現計画後期基本計画の振り返りはどのように行われるものか。

事務局 資料No.3-1のスケジュールでいうと、令和7年1月から2月までに担当課で今後の施策の内容を検討する予定としており、現計画の振り返りや課題の洗い出しを行った上で、次期計画の取組を検討する予定。

委員 現計画後期基本計画において5つの大きな目標があり、その下に多くの施策が行われている。この多くの施策を1件ずつ、「まち」「ひと」「しごと」の3つに再編する議論をしていくものか。

事務局 現計画後期基本計画では、農林水産業や工業などの区分を大分類とし、その下の施策の展開を中分類としていた。この分野別の構成としていたものを、次期計画では分野横断的に、「ひと」「まち」「しごと」の区分に整理する。これまでであれば、農林水産業という分野の中でこういった施策を進めるかという考え方で策定を進めてきたが、今回はそのやり方ができないため、ご意見をいただいた内容を中分類にまとめ、さらにこれをまとめて大分類にする作業とした。

全ての分野ではなく、分野を絞ってご意見をいただきたい。また、これまで審議会の中で、子育てはひとづくりでもあるが、まち全体での子育てという視点も必要という意見が出されたように、視点を広げて分類の視点が適切かどうかという点についても意見をいただきたい。

委員 作業量が多いため、審議会の場での検討では進まないと思われる。検討方法を再考してはどうか。

事務局 今回の資料により、今回と次回で継続して検討いただくよう考えていたが、進め方は再度組み立てる。

会長 これまでの計画の構成と異なるため作業は難しくなるが、今回は前振りの段階ということで、次回改めてご意見をいただく。

10 担当課 市長公室政策企画課